



「社会保障の解体は許さない！介護保険制度の抜本改善を！！」
STOP！介護改悪 介護ウェーブ2014推進ニュース
-介護の“Big Wave”を広げよう！-

6.4 国会行動の報告です♪

6月4日の参議院議員会館での国会行動は、職員と共同組織から38名の参加で行われました。小池議員（日本共産党）が情勢報告に駆けつけ、利用料の2割負担の根拠が異なるデータを対比させ、さも60万円が余るかにした極めて悪質なものであるとのことと報告されました。他にも、要介護認定の地域格差や要支援の介護保険からの切り離し後、単価の切り下げが見込まれるため、事業所の中には要支援サービスを行わないと言っているところもあること、地域ケア会議で介護保険からの「卒業」を迫る自治体、特養入所の要介護3以上の限定化で待機者にもなれない現状なども報告されました。6月16・17日の国会が最大の山場になり、強制的な動きも考えられるそうです。世論、議員に広く訴えとりくみをさらに強めましょうと強く訴えがありました。



その後、国会議員要請行動を行い、午後は感想を交流しました。みなさま、お疲れさまでした。



宮城

千葉

東京

神奈川

兵庫



HOW TO 国会行動 ～議員さんのまわり方～

初めての議員まわりは大変緊張します。（初めてでなくても緊張しますが・・・）国会要請行動がどんな風に行われているか、レポートします。

- ①国会の情勢報告や情勢学習会終了後、法人ごとや県連ごとに3～5人くらいのグループに分かれます。1人で来た方は、お近くの県連や法人のグループと合同になります。
- ②グループごとに、どの議員さんに会いに行くかを決めます。議員名簿が用意してあるので、それを見ながら5～10名ピックアップします。厚労委員や地元の議員さんが狙い目です。事前にアポをとっておくと、より効果的です



- ③陳情のための資料（陳情書、介護のパフレットなど）を持って、議員さんの部屋に行きます。名乗るときは、「事業所名」と「職種」、「現場が日々たいへん忙しい中で、実態を知ってもらおうと、遠くから来ました！」としっかり伝えましょう！議員との遭遇率は低く（居留守の人もいます）、秘書や事務の方が対応してくれます。秘書には、政策秘書（議員の国会発言等を考える）と一般の秘書がいます。議員の考え方をよく分かっている政策秘書が出てくると話しいががあります。



- ④お話を聞いてくれる議員さんに会えると、部屋に案内してくれ、お茶も出してくれることがあります。嬉しくなります。

⑤そこでは、介護現場の状況話しましょう！複数の人でまわるので、1人1つずつくらい事例があれば大丈夫です。利用者さんや家族の苦勞している状況（認知症の周辺症状や経済面、介護疲れなど）、介護度が軽く出ている実態、介護職の忙しさと賃金の低さを自分の身のまわりの事例からお話してください。

法人や県連で集めた「みんなの声」や影響調査のパンフ、介護のチラシなどを広げて視覚にも訴えましょう。

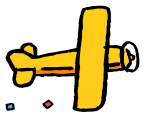


この日は、京都から参加の社会福祉士さん2人と介護福祉士さんは京都選出の議員をまわり、最後に民医連の元看護師・倉林議員（日本共産党）に会うことができました。利用者さん達が「この法案が通ったら介護が受けられなくなるんじゃないか」、「お金がかかるようになって、住みにくくなるのではないか」と不安の声をあげていることを伝えました。介護福祉士さん

からの「これって本当に進められちゃうんですか？」の質問に 倉林議員から丁寧で力強い返答をもらいました。「自民党は議席をたくさん持っている今、医療・介護の総合法案だけでなく、「生涯派遣 OK 法案」や「残業代なんか払わないよ法案」（注：事務局が命名）などもどんどん通そうとしている。でも、こういった法案に対して医師会など、今まで自民党を支えていた人たちまでもが「あかん！」となってブレーキがかかりつつある状況。世論と国政がかけ離れている動きが国会でも広がっている。ほんま、おもしろい状況なんや～！たたかいいいのある局面やで！」と、たいへん元気になる言葉をいただきました。

倉林さんのような議員さんばかりではありませんが、私たちは、国会に来られない利用者さんや家族、職員の代弁者です。どのようにしたら、介護現場の様子が伝わるか知恵を出し合い、来て良かったと思える行動にしていきたいと思います。

がんばりましょう！



遠くからがんばって来る福岡・佐賀の場合

5月27、28日の両日、福岡・佐賀民医連から共同組織含め9名が国会集中行動へ参加。

傍聴を予定していた厚労委員会が延期となったため、国会前での座り込みを行い、その後、「司法試験制度の一部改正」法案について仁比議員の質問や医師不足の問題など、法務委員会の傍聴を行いました。

翌日は、午前中に議員要請行動、午後からは、中央社保協と共同で、緊急院内集会在開催され、冒頭で、小池晃参議院議員（日本共産党・元民医連医師）より国会情勢の報告をうけました。

集会後の午後もし引き続き議員要請行動を行い、職員からは介護現場の実態について、利用者、家族の立場や現場で働くものとしての現状を伝え、地元の議員中心に広く訴えてきました。

秘書の対応が中心でしたが、ボランティア活用の問題では、「地方では足りなくなると思われるので、反対の方向」。「自公が集団的自衛権などを訴え、アベノミクスは目先の利益ばかりで、今回の件についても、老後の不安は解消されていない」、「同郷の議員と頑張っていきます」との声も聞かれました。

（福岡・佐賀民医連介護ウェブニュース NO.1 より）



議員会館前での座り込み



参加報告より

●簡潔に議員の心に届くように伝えるための言葉(内容)選びが難しかった。小さな一歩だが、地道ひとつひとつ「伝える」ということ要請行動を続けていくことが大切だと思った。（福岡医療団・看護師）

●他党の方々も医療介護総合推進法案には反対しているということ声を聞くことができた。廃案にできる可能性が実感できた。（親仁会・介護福祉士）



お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：諏佐・吉澤

☎ 03-5842-6451 / fax 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp